

—これからの医業経営の在り方検討会—

医療機関設備資金の資金調達

2002年7月17日

明治生命フィナンシャルズ研究所

主任研究員 松原 由美

全体の構成

1. 前提
2. 民間病院における設備資金調達の実態
 - ・アンケート調査結果から見た資金調達
 - ・ヒヤリング結果から見た資金調達
3. 資金調達面から見た病院の特性
4. 各種資金調達方法の検討
 - ・診療報酬債権流動化による資金調達
 - ・REITによる資金調達
 - ・債券による資金調達

債券公募/債券私募
5. 病院の資金調達問題の本源的所在
6. 最後に

1. はじめに

—前提—

- ・民間病院が対象
- ・資金調達の中でも、設備資金の資金調達
- ・既存病院の経営安定化のための資金調達
- ・行政として考えなければならない領域

2. 民間病院における設備資金調達の現状

2.1. アンケート調査結果から見た資金調達

- ・ 目的 : わが国の民間病院における資金調達の実態の把握
- ・ 調査項目: ①経営課題、②資金調達、③経営者の意識、④病院業績
- ・ 調査方法: 全国の医療法人5,109病院と個人病院1,517病院
(合計6626病院)から病床規模、都道府県で層化抽出した2,000病院に対してアンケートを郵送法で実施し、有効回答率は14.8%。

- ・ 回答を寄せた病院のうち、各種ある経営課題の中で、資金調達への関心度は必ずしも高くなかった(複数回答で、医師不足を挙げる病院が5割に達する反面、資金調達不足を挙げる病院は16%程度)。
- ・ 長期資金は約6割が必要とし、そのうち約4割が不足。
- ・ 資金需要の中身は建物の増改築が圧倒的(約8割)。
- ・ 銀行の融資態度は、以前と変わらないとする病院が約5割、以前より借りやすくなった病院が約2割、厳しくなったとする病院が約2割。

- 病院の資金調達を容易にする方策については、公的支援を求める声が圧倒的に多かった。
- 公的支援を受けられるのであれば持ち分を放棄すると答えた病院は27.4%。
- 主な入院機能として、過半が療養を担うと答えていた。
- 病院の業績については、黒字6割、収支トントン3割、赤字1割。

<参考>

赤字病院・黒字病院比率(全日病調査)

| | |
|------|-----|
| 赤字病院 | 24% |
| 黒字病院 | 76% |

資料:1999年度全日病病院経営調査報告

医療法人(一般病院)の病床規模別・赤字病院比率の推移

(%)

| | 1997年 | 1998年 | 1999年 |
|----------|-------|-------|-------|
| 99床以下 | 35.0 | 28.8 | 28.5 |
| 100～199床 | 26.0 | 24.3 | 22.7 |
| 200～299床 | 23.7 | 22.3 | 29.3 |
| 300床以上 | 24.1 | 17.7 | 20.9 |
| 合 計 | 30.3 | 25.9 | 26.2 |

資料:厚生労働省医政局平成「病院経営指標」(平成10年度、11年度)より作成

2.2. ヒヤリング結果から見た資金調達

・ヒヤリング対象

病院経営者(50施設)

医療団体理事(4団体)

金融機関(7機関)

医薬品卸(2社)

医療コンサルタント(2社)

原則、銀行は病院へ前向きな融資態度

i) 銀行から見た病院のメインバンクになることによるメリット

- ・診療報酬払込み指定銀行となることによる預金確保
- ・毎月送金される診療報酬の動きを見ることによる業績チェックと債権保全
- ・給与払込みを通じた個人顧客の獲得
- ・場合によっては病院は人材の送り先となりうる

ii) 地方においては有力取引先が乏しいため、相対的に優良取引先